

平成 24 年度

---

市 政 方 針

苫 小 牧 市 長

岩 倉 博 文

# 平成24年度 市政方針 目次

《1 政治姿勢》	1	交通安全	14
(1)はじめに	1	防犯	14
(2)時代認識	2	(2)活力ある産業と賑わいのまち	14
(3)まちづくりの姿勢	3	新千歳空港	14
(4)公約について	3	空港民営化	14
《2 基本政策》	4	日米共同訓練	15
(1)財政健全化	4	苫小牧港	15
(2)行政改革	4	工業	15
(3)市民自治の推進	5	自然エネルギー	15
《3 予算編成》	6	苫東開発	16
《4 重点施策》	7	農業	16
企業誘致	7	林業	16
景気・雇用対策	7	漁業	16
053大作戦～ステージ3～	8	商業	17
CAP(まちなか再生 総合プロジェクト)	8	観光	17
災害に備えたまちづくり	9	(3)自然と環境にやさしいまち	17
福祉	10	地球温暖化	17
学校教育	10	大気汚染	18
文化	11	アスベスト	18
苫小牧中央インターチェンジ	11	合併浄化槽	18
《5 主要施策》	11	(4)快適空間に生活するまち	18
(1)健やかで安心・安全に 暮らすまち	12	樽前地区地域振興	18
子育て支援	12	公園	19
児童虐待への対応	12	住居表示	19
母子家庭支援	12	水道	19
健康を守る事業	12	下水道	19
市立病院	13	市営住宅	19
国民健康保険	13	道路	19
消費者保護	13	市営バス	20
公設地方卸売市場	13	(5)手をつなぎ歩む誇りが 持てるまち	20
河川	13	町内会館整備	20
消防	13	男女平等参画	20
		平和	20
		国際交流	21
		《6 むすび》	21

誰もが安心して生き生きと暮らす「誇れる街、苫小牧」の実現に向け、平成 24 年度のまちづくりに臨む、私の所信と施策の概要を申し上げ、市民ならびに議員の皆さんのご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

はじめに、去年の東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。また、今も復旧・復興のためご尽力されている皆様に、敬意を表します。

本市におきましても、被災地の皆様が一日も早く、明日への希望を持って毎日を過ごせるよう、できる限り支援をまいります。

## 1 政治姿勢

### (1) はじめに

平成 18 年に私が市長に就任してから、5 年が経過し、今年は 2 期目の折返しの年となります。活気ある苫小牧の実現に向けた施策を推進するにあたり、市民ならびに議員の皆さんのご理解とご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

去年の東日本大震災は、甚大な津波被害と原発事故という戦後最大の危機をもたらしました。本市ではその教訓から、市民の皆さんの命を守るため、津波災害を想定した避難計画の見直しに向け、取り組んでまいりました。

市政におきましては、「財政健全化計画」と「行政改革プラン」に基づき、指定管理者制度の導入などを着実に実行し、行財政改革に取り組んでまいりました。しかし、不安定な世界経済などにより景気の低迷が続いており、税収が伸びない厳しい状況にあります。引き続き、経済不況や国の政策転換などに対応できる、強固で安定した財政基盤を確立するため、財政健全化に向けた取組を積極的に推進してまいります。

## (2) 時代認識

世界経済は、リーマンショックからの立ち直りの兆しを見せておりましたが、アメリカの高い失業率やユーロ圏の債務危機など、大きな問題を抱えております。

国内におきましては、原発事故による電力供給の不安要素や長引く円高などが、企業の経済活動に影響を及ぼしております。

道内におきましては、震災後の自粛ムードや原発事故の影響により道外からの旅行客や外国人観光客が大幅に減少いたしました。雇用情勢は緩やかな持ち直しの動きがみられるものの、依然として厳しい状況が続いており、建設業をはじめとする多くの業種で先行きの不安が高まっております。

本市におきましても、景気的大幅な改善はみられないことから、国の動向を注視し、状況に即した対応を速やかに行うことが必要と考えております。

### (3) まちづくりの姿勢

私は、資源のない我が国において、雇用問題や少子高齢化などに対応し、持続可能な社会を実現するためには経済活力が重要な軸であると考えております。本市は、物流の拠点である国際港湾と国際空港を擁し、特に、道内の経済活動の根幹を支えている苫小牧港については、これまでの機能に加え、災害復旧時の重要な役割も担えるよう、引き続き整備促進に努め、私の2期目の目標である「財政基盤の確立、そして経済活力を起点とした活気ある苫小牧づくりへの挑戦」に向け、邁進してまいります。

また、本市は、交通の要衝という利点を生かし、石油精製、紙パルプ、自動車関連、天然ガスなど、様々な企業が立地する工業都市として発展してまいりました。昨年は、社会増により人口が過去最高となる一方、初めて自然減を記録し、将来は人口の減少が予測されます。そのため、CAP（まちなか再生総合プロジェクト）をはじめとする施策を積極的に進め、先を見据えたまちづくりを推進してまいります。

また、総合計画につきましては、市民の皆さんの意見を取り入れながら、「第5次基本計画」の見直しを進めてまいります。

### (4) 公約について

私は、2年前の市長選挙において「市民の皆さんとのお約束」として、5つの基本政策と30項目の公約、さらに具体的な65施策を掲げ、これらすべてを4年間のうちに達成できるよう、着実に取り組んでお

ります。任期の折返しである本年6月から、その取組状況について皆さんにわかりやすい形で公表してまいります。

## 2 基本政策

次に、市政運営における基本政策について申し上げます。

### (1) 財政健全化

財政健全化につきましては、行政改革プランと連携を図りながら、第1学校給食共同調理場業務や広報紙作成業務の一部民間委託、自動車運送事業の民間移譲による会計閉鎖、市営住宅事業の会計方式変更などの取組を着実に推進してまいりました。

平成22年度決算においては、財政健全化の数値目標として設定した経常収支比率、公債費比率、実質公債費比率の3指標とも目標値をクリアしております。しかし、長引く景気低迷により、今後も厳しい財政運営が続くことから、市民の皆さんとお約束した「安定した財政基盤の確立」に向け、引き続き財政健全化に取り組んでまいります。

### (2) 行政改革

行政改革につきましては、平成22年度に策定した行政改革プランの後期取組期間に向け、全体見直しを実施し、さらなる推進を図ります。

指定管理者制度につきましては、新たに総合体育館に導入するほか、

市民会館の公募を進めてまいります。また、モニタリング制度の見直しを行い、着実に運用してまいります。

市役所の組織体制につきましては、昨年策定したコンプライアンス指針に基づき、より一層の職務規範の徹底やリスク管理を行ってまいります。また、職員配置適正化方針に基づく定員管理を実施するほか、民間委託や事務事業の見直しを進め、適正かつ効率的な行政運営に努めてまいります。

### **(3) 市民自治の推進**

市民自治の推進につきましては、自治基本条例の見直しから1年が経過したことから、市民自治推進会議を中心に今後の運用方針の検討を進めてまいります。また、市民編集グループによる、自治基本条例の子ども向け冊子の編集作業を継続してまいります。

市民参加につきましては、若年層を中心に市民周知の取組を推進してまいります。また、市政モニターにつきましては、事業への参加と体験を通してご意見をいただき、市政レポーター「とまレポ」と改称して実施するほか、まちかどミーティングなどを引き続き開催してまいります。

今後も市民の皆さんとの情報共有に努め、いただいたご意見を可能な限りまちづくりに反映してまいります。

### 3 予算編成

次に、予算編成について申し上げます。

今年度は、事業の選択と集中、職員のマネジメント力のさらなる向上を目指し、新たに政策主導型予算編成といたしました。

地域経済は、依然として厳しい状況が続いていることから、拓進小学校の建設、苫小牧市美術館（仮称）の設置など、公共事業の確保と雇用対策に取り組んでまいります。さらに、安心・安全対策として、防災事業の拡充、小・中学校耐震化事業の加速化を図るなど、政策予算の一般財源として 37 億 9 千万円を確保し、早期発注事業として 4 億 3 千万円を計上いたしました。

以上の結果、今年度の当初予算は、

一般会計	74,593,000	千円
特別会計	33,128,231	千円
企業会計	20,824,043	千円
合 計	128,545,274	千円

となりました。

各会計の予算案は、議案第 16 号から第 27 号であり、関連する議案は第 29 号、第 30 号、第 31 号、第 35 号、第 36 号、第 38 号、第 39 号、であります。

なお、各会計予算と関連議案の詳細につきましては、予算委員会においてご説明いたします。

## 4 重点施策

次に、重点施策についてご説明いたします。

### < 企業誘致 >

企業誘致につきましては、トップセールスを主軸に据え、国際港湾と国際空港のダブルポートを擁する物流拠点としての優位性と、企業立地振興条例による助成制度を積極的にPRし、自動車をはじめとしたものづくり産業や自然エネルギー関連産業、さらに、このたび苫小牧地点での実証試験が決定したCCS（CO<sub>2</sub>の回収・貯留）に関連する産業などの誘致に取り組んでまいります。

また、既存の立地企業のニーズを常に把握し、各種相談や手続きなど、ワンストップサービスによる、きめ細かなフォローアップを行い、企業への支援と信頼関係の維持に努めてまいります。

### < 景気・雇用対策 >

景気対策につきましては、市が発注する工事などは可能な限り地元企業の優先活用に配慮するほか、早期発注や分離分割発注を積極的に行い、地元経済の活性化につなげてまいります。

雇用対策につきましては、緊急雇用対策事業や新卒高校生等雇用奨励金交付事業の継続により、積極的な新規雇用の創出に努めてまいります。また、被災者および求職者を対象に、市独自で雇用する震災等臨時職員雇用創出事業を実施してまいります。

### **< 053 大作戦～ステージ3～ >**

まちぐるみの取組である大作戦シリーズにつきましては、来年7月に予定している家庭ごみ有料化実施までの期間で、有料化に向けた丁寧な市民周知、ごみ減量への取組の推進、分別品目拡大への取組、不法投棄や不適正排出の防止、環境教育の推進の5つのテーマを柱とした「053 大作戦～ステージ3～」を展開してまいります。

今年度は、きめ細かな説明会を開催し、ごみの分別方法の大幅な変更等を周知するほか、リサイクルプラザをゼロごみ発信基地と位置づけ、あらゆる情報の発信に努めるなど、市民・事業者・行政が協働して様々な事業を展開し、ごみ問題について、まちぐるみで考え、参加、行動を実践してまいります。

### **< CAP（まちなか再生総合プロジェクト） >**

CAP（まちなか再生総合プロジェクト）につきましては、「プログラム・パート1」に基づき、持続可能な将来のセーフティネットとして、まちなかを暮らしやすい生活空間へと充実させる事業を展開してまいります。

今年度は、昨年開館したまちなか交流館を拠点とし、関係機関と連携したイベントを開催するほか、本市初の公式キャラクター「とまチョップ」による、各種イベントやメディアでのPRを通じ、まちなかの賑わい創出につなげてまいります。

また、ライブラリーカフェ（仮称）開設に向けた準備や地域公共交通活性化協議会と連携した公共交通の利便性向上、市営住宅まちなか移転事業などの推進により、定住人口や交流人口の増加を目指してまいります。

### **<災害に備えたまちづくり>**

災害に備えたまちづくりにつきましては、北海道が作成する津波浸水予測図および津波避難計画策定指針を受け、本市の新たなハザードマップを作成して全戸配布するほか、地域ごとの津波避難計画の策定作業を進めてまいります。

また、新たに防災ラジオを導入するなど、緊急時の情報伝達の強化に努めてまいります。

さらに、町内会や企業などへの出前講座や市民防災講座を積極的に開催するほか、災害時要援護者支援プランの拡大、自主防災組織に対する図上訓練の実施、避難所となる小・中学校への災害用備蓄品の継続配備など、地域における防災力の向上に努めてまいります。

## < 福 祉 >

福祉につきましては、すべての市民の皆さんが住み慣れた地域で安心して生活できるよう、「みんなでふくし大作戦！」の取組をきっかけに芽生えた「ふくしの芽」を育ててまいります。

高齢者福祉につきましては、新たに「高齢者保健福祉計画・第5期介護保険事業計画」を策定するほか、高齢者が介護ボランティア活動を行う、「介護支援いきいきポイント事業」などを実施してまいります。

障がい者福祉につきましては、「働く幸せチャレンジ事業」を実施し、市が率先して障がい者雇用に取り組むほか、公共施設のバリアフリー化の推進や、コミュニケーション支援などの心のバリアフリー事業により、地域生活支援の充実に努めてまいります。

また、コミュニティセンターなどの公共施設を、安心して授乳やおむつ交換が行える「赤ちゃんの駅」として開設してまいります。

## < 学校教育 >

学校教育につきましては、来年4月の開校を目指し、拓進小学校を建設するとともに、同年3月には弥生中学校を閉校し、学校規模の適正化を図ってまいります。また、災害時の避難場所となる学校施設の耐震化を早急に進めてまいります。さらに、調理業務を民間委託する第1学校給食共同調理場につきましては、新たにドライ方式を導入した最新式の施設として本年4月に運用を開始し、より一層、安心・安全な学校給食の提供に努めてまいります。

## <文 化>

文化振興につきましては、苫小牧市美術館（仮称）の平成 25 年度開館に向け、博物館の増改築工事を行うとともに、ワークショップなどを通して市民の皆さんの声を広く聴きながら、文化芸術活動の拠点となるよう準備を進めてまいります。

また、気軽に文化や芸術に触れることができる文化公園アートフェスティバルの開催などを通し、多くの市民に足を運んでいただき、文化公園の魅力を実感していただけるよう努めてまいります。

さらに、青少年ミュージックキャンプや P M F 演奏会を継続するなど、文化芸術に親しむ機会の充実を図ってまいります。

## <苫小牧中央インターチェンジ>

苫小牧中央インターチェンジにつきましては、物流の効率化や企業立地の促進のほか、広域医療への貢献や災害時の避難経路として期待されております。設置に向け、国の政策を注視しながら、北海道をはじめ関係機関と協議を進めてまいります。

## 5 主要施策

次に、総合計画の体系に基づく 5 つのまちづくりの目標に沿って、主な施策をご説明いたします。

## **(1) 健やかで安心・安全に暮らすまち**

初めに、「健やかで安心・安全に暮らすまち」について申し上げます。

子育て支援につきましては、市立すみれ保育園の民間移譲の事業者を決定するなど、「保育所整備計画」を進めてまいります。また、「ファミリー・サポート・センター事業」および「病児・緊急対応強化事業」を一体的に行うほか、新たに、ひとり親家庭等を対象に利用料の軽減を図ってまいります。

児童虐待への対応につきましては、多様化する相談に速やかに対処するほか、室蘭児童相談所や要保護児童対策地域協議会との連携を一層強化し、要保護児童とその家庭を支援してまいります。また、庁舎1階のスペースを室蘭児童相談所が行う児童相談などに活用するとともに、分室設置に向け、引き続き関係機関へ要望してまいります。

母子家庭への支援につきましては、母子家庭自立支援給付金事業を引き続き促進し、経済的自立を支えてまいります。

健康を守る事業につきましては、保健センターなどの関係機関と連携し、市民の健康づくりの機能向上を目指します。また、妊婦健診に対する助成や、子宮頸がんを含む3種の予防ワクチン接種への全額助成など、各種事業を引き続き実施してまいります。

市立病院につきましては、東胆振・日高圏の中核病院として高度な医療機器の整備を行うとともに、新生児集中治療室を増床し、周産期医療の充実を図ってまいります。また、地域医療連携システムを整備し、各医療機関との情報共有化を推進してまいります。さらに、昨年、災害拠点病院に指定されたことから、災害派遣医療チームを養成するなど、災害時の体制強化に取り組んでまいります。

国民健康保険事業につきましては、生活習慣病の予防のため、特定健診の自己負担金をすべて無料化いたします。また、引き続き収納率の向上に努めてまいります。

消費者保護につきましては、悪質商法による被害や多重債務の相談などについて、関係機関と連携し、取り組んでまいります。

公設地方卸売市場につきましては、多様化する消費者ニーズに対応するため冷凍庫を新設し、安心・安全な水産物の安定供給に努めてまいります。

河川につきましては、植苗・美沢地区でのカヌーポートと親水公園の整備に着手し、水辺を生かした交流の促進に努めてまいります。

消防につきましては、救急救命士養成や薬剤投与研修に職員を派遣

し、救急業務の高度化を図ってまいります。また、救急車の更新、消防救急デジタル無線の整備、住宅用火災警報器の設置の促進など、災害に強いまちづくりを進め、地域住民の安全確保に努めてまいります。

交通安全につきましては、交通安全設備を整備するとともに、関係機関と連携した広報啓発活動を実施し、交通ルールやマナーに対する市民意識の向上を図ってまいります。

防犯につきましては、苫小牧市防犯協会など関係機関と連携し、情報の提供や地域の自主的な防犯活動を支援してまいります。また、引き続き交番新設の要望を行ってまいります。

## **(2) 活力ある産業と賑わいのまち**

次に、「活力ある産業と賑わいのまち」について申し上げます。

新千歳空港につきましては、国際線ターミナルビルの整備や、国内線ターミナルビルのリニューアルオープンによる利便性の向上で、国際拠点空港として発展しております。今後も北海道との連携を強化し、地域の皆さんとの協議を踏まえ、空港機能の拡充に努めてまいります。

空港民営化の動きにつきましては、民営化により航路下地域の生活環境や安全対策に影響がないよう求めるほか、引き続きターミナルビル等への出店や雇用の拡大などを要望してまいります。

在日米軍再編に伴う千歳基地での日米共同訓練につきましては、市民周知に努め、市民の安心・安全を確保してまいります。また、再編交付金につきましては、航路下地域の皆さんと引き続き協議をさせていただき、市民生活の向上に役立ててまいります。

苫小牧港につきましては、西港区西ふ頭の耐震強化岸壁の整備事業を進めるとともに、老朽化している既存岸壁の改良工事を実施してまいります。東港区におきましては、3基目のガントリークレーンを設置するなど、中央ふ頭国際コンテナターミナルの機能を強化してまいります。また、クルーズ客船の誘致や港周辺でのイベント開催など、市民に親しまれる港としての魅力づくりに努めてまいります。

工業につきましては、テクノセンターにおいて、X線分析装置を導入するほか、技術研修会等を開催し、ものづくりに取り組む地元企業の技術力の向上を支援してまいります。また、(財)道央産業技術振興機構が実施している高度技術開発事業や産学官連携共同研究事業を引き続き支援してまいります。

最近注目を集めている自然エネルギーにつきましては、本市は、火力発電、天然ガス田、石油精製、石油備蓄基地を有する、我が国にとって重要なエネルギー供給基地であり、今後は、メガソーラー誘致をはじめ、科学センターに太陽光発電を導入し、学習拠点として活用す

るなど、自然エネルギープロジェクトの推進を図ってまいります。

苫東開発につきましては、国の「苫小牧東部開発計画の進め方について（第2期）」に基づき、既存立地分野の一層の集積や今後の成長が期待できる産業の導入を図ってまいります。また、関係機関との緊密な連携のもと、将来的な苫東開発地域の可能性を探る取組を進めてまいります。

農業につきましては、優良繁殖用家畜の導入に対する助成を継続するほか、市有放牧場の草地改良事業を実施してまいります。また、ふるさと農園をウトナイ地区に90区画開設するほか、来年度開設予定である錦岡地区の農園の造成を行ってまいります。さらに、エゾシカ対策として鳥獣被害防止対策実施隊を組織し、農作物被害の防止に努めてまいります。

林業につきましては、地球温暖化対策として森林の公益機能を重視した育成管理を促進するほか、関係機関と連携しながら、風倒被害を受けた森林の復旧を進めてまいります。

漁業につきましては、マツカワ稚魚の放流など栽培漁業を推進するほか、漁獲量日本一を誇る市の貝、ホッキ貝の消費拡大のため、引き続きPRを行ってまいります。

商業につきましては、商店街活性化条例の制定、商店街が実施する環境整備事業やイベントの支援、中心市街地の空き店舗活用事業補助の継続などにより活性化を進めるほか、CAP（まちなか再生総合プロジェクト）と連携を図ってまいります。また、中小企業振興基本条例の策定に向け、懇話会で検討を進めてまいります。さらに、若手経営者育成のための創業セミナーや各種融資制度の周知により、中小企業の経営基盤の安定や向上に努めてまいります。

観光につきましては、道の駅ウトナイ湖の集客力を生かすとともに、デジタルツールを含めた多様な情報を発信し、観光客の利便性向上と、誘客の促進につなげてまいります。また、フィルムコミッション事業につきましては、本市において撮影された映画「のぼうの城」の公開に向け、パネル展を開催するとともに、今後も関係機関と連携し、ロケの誘致や支援を行ってまいります。

### **(3) 自然と環境にやさしいまち**

次に、「自然と環境にやさしいまち」について申し上げます。

地球温暖化対策につきましては、住宅用太陽光発電システム設置の助成件数を大幅に拡大し、温室効果ガスの排出削減に取り組んでまいります。また、環境基本計画の改定と、地球温暖化対策地域推進計画の見直しを行い、環境基本条例の理念に基づいた環境保全施策を推進

してまいります。

大気汚染の常時監視につきましては、新たに環境基準が設定された微小粒子状物質の測定機器などを整備してまいります。また、工場などの発生源に対しては、公害防止協定に基づき、徹底した対応を行ってまいります。さらに、市内の空間放射線量を引き続き監視してまいります。

アスベスト対策につきましては、小・中学校3校を含む4施設で煙突改修工事を行うほか、アスベストを含む可能性がある市の施設の煙突について、調査を行ってまいります。

合併浄化槽につきましては、下水道認可区域外での整備を進め、地域の環境保全および公衆衛生のさらなる向上を図ってまいります。

#### **(4) 快適空間に生活するまち**

次に、「快適空間に生活するまち」について申し上げます。

樽前地区の地域振興につきましては、地域の皆さんとともに、人口減少や高齢社会に向けた地域のあり方、コミュニティの維持や活性化について検討し、「樽前地区地域振興計画」を策定いたします。また、新たに予約運行型バス事業を実施いたします。

公園につきましては、地域の声を取り入れながら、老朽化が著しい宮の森2号公園などについて、安心して利用できる公園整備と施設のバリアフリー化を進めるとともに、錦大沼公園のハナショウブ園を引き続き造成してまいります。

住居表示につきましては、沼ノ端鉄南地区において実施してまいります。

水道事業につきましては、「水道ビジョン実施計画」に基づき、老朽施設の更新や耐震化、緊急貯水槽の継続的な整備を進めるほか、錦多峰浄水場に配水池の新設と緊急遮断弁の設置をすることなどにより、災害対策を進め、安心して安全な水道水の提供に努めてまいります。

下水道事業につきましては、合流式下水道を改善するとともに、老朽施設の長寿命化、雨水管整備や污水管未整備箇所解消などに努めてまいります。

市営住宅につきましては、CAP（まちなか再生総合プロジェクト）と連携し、日新町から若草町へ移転する団地にユニバーサルデザインを導入するなど、様々なニーズに対応した1棟120戸の建設を行ってまいります。

道路整備につきましては、幹線道路では、植苗停車場道線、緑町2

条通線および双葉3条通線の整備を継続して進めるほか、新たに新開町5号中通の整備に着手してまいります。また、生活道路では、地域要望を踏まえながら、もえぎ5号線などの整備を行い、生活環境の向上に努めてまいります。

市営バス事業につきましては、4月から民間移譲いたしますが、今後も利用者サービスの継続および路線の維持のため、利用者や事業者で構成するバス運行連絡会議を設置し、市民の皆さんの足を守ってまいります。

#### **(5) 手をつなぎ歩む誇りが持てるまち**

最後に、「手をつなぎ歩む誇りが持てるまち」について申し上げます。

地域活動の拠点となる町内会館の整備につきましては、錦岡総合福祉会館の修繕に対し、助成してまいります。

男女平等参画につきましては、「男女平等参画基本計画（第2次）」に基づき、DV（ドメスティック・バイオレンス）被害者を保護し、自立をサポートする民間シェルターを引き続き支援するほか、男女平等参画宣言に向け取組を進めてまいります。

平和事業につきましては、苫小牧市非核平和都市条例の制定10周年を記念し、小・中学生絵画展などを実施してまいります。また、引き

続き中学生広島派遣事業や原爆パネル展を行い、市民啓発に取り組んでまいります。

国際交流につきましては、市民の国際理解を深める事業や在住外国人へのサポートを行ってまいります。また、今年度は中国秦皇島市への中学生の派遣や訪問団の来苦などが予定されておりますので、市民や民間団体による幅広い交流に発展するよう取り組んでまいります。

## ■ 6 むすび

以上、平成 24 年度のまちづくりに臨む私の所信と施策の概要を申し上げます。

世界経済停滞の影響により景気の低迷が長引き、本市におきましても閉塞感が拭い切れない状況が続いております。

私は、今年の行動指針を、困難をものともせず目的や目標に向かってひたすら突き進む姿勢を意味する「勇往邁進」といたしました。

厳しい財政状況が続くなど、先行きの不透明な状況においても、時代の流れを的確に捉え、進むべき方向を見失わず、今なすべき施策にしっかりと取り組み、市民の皆さんが将来にわたり明るく生き生きと暮らせるまちづくりを、責任を持って実行してまいります。

また、職員一人ひとりが、コスト意識を高め、マネジメント力を発

揮しながら日々の業務を遂行するとともに、チーム一丸となって、様々なことに対応できる組織である「市民のための市役所づくり」を目指し、理想の都市である「人間環境都市」の実現に向け、取り組んでまいります。

市民ならびに議員の皆さんのご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます、市政方針といたします。